



Data

脚本・監督: カラ・シモン
出演: ライア・アルティガス/パウ
ラ・ロブレス/ブルーナ・ク
ッシ/ダビド・ヴェルダグエ
ル/フェルミ・レイザック/
イザベル・ロカッティ/モン
セ・サンズ/ベルタ・ピポ

■■■ショートコメント■■■

◆キネマ旬報8月下旬号の「REVIEW 日本映画&外国映画」では、3人の映画評論家がすべて星4つという高評価。そして、第67回ベルリン国際映画祭に正式出品され、ワールドプレミアされた本作は、ジェネレーションK plus部門グランプリと新人監督賞を受賞したと聞いて、本作は必見! そう考え、チラシに書いてある「スペイン・カタルーニャの陽光にきらめく、少女の“特別な夏”。これは誰しもの心にある物語。」という宣伝文句にも期待したが・・・。

◆子供の天然の演技だけで十分成立し、感動する映画がある。その代表が、かつての『禁じられた遊び』(52年)だ。本作もそれで、主人公となる6才の少女フリダ(ライア・アルティガス)の魅力がどこまで維持できるかが本作のポイントだ。しかし、本作は、母親の死亡によってバルセロナからカタルーニャの田舎に移り、叔母さん夫婦のもとに引き取られて過ごすフリダの姿を淡々と追うだけだから、私はいい加減飽きてくる。それがいいという人もたくさんいるようだが、私にはちょっと・・・。

◆フリダの母親の死亡原因はナニ? また、フリダにも定期検診が必要なのはなぜ? フリダが少しでも出血すると、周りの人が異常に気を遣うのはなぜ? そんなシークエンスを見ると、“ある病気”の深刻さを考えざるを得ないが、どうもフリダは大丈夫らしい。
映画が後半に向かう中でそんな希望が見えてくるが、逆にフリダのワガママさから叔母さん夫婦との折り合いが悪くなり、ついにフリダは家出をすることに・・・。さあ、事態は急に波乱の時を迎えるが、アレレ・・・、この結末は一体ナニ? これがいいという評論家もいるようだが、私には・・・?